

8 月度 例会 山行報告書		報告者	津田廣一	参加メンバー 津田廣一
		報告日	8/10	
山城	東北	山行日	18年 8月 6日 (月)	
山名	飯豊山		～8月 7日 (火)	
山行目的	御嶽山を登る		コースタイム (天候: 天気図記号)	

配布先	ルート図 (地図を見て正確に)	8/6 (雨後曇り)	8/7 (雨後曇り)
総会参加数		4:30 起床 5:00 宿発	4:30 起床
山行: 1		5:20 御沢野営場 P 着	6:20 本山小屋発
リーダー		5:55 御沢野営場発	6:35 飯豊山頂上
原紙:		6:40 下十五里 1本	6:55 本山小屋着
会事務局		7:10 中十五里	7:15 本山小屋発
		7:40 上十五里	8:10 姥権現 1本
		8:05 笹平 1本	9:00 切合小屋
		8:30 横峰小屋跡	9:20 種蒔山付近 1本
		9:10 地藏山分岐	10:20 三国小屋 1本
		9:20 1本	11:10 地藏山分岐
		10:10 剣ヶ峰	11:40 笹平 1本
		10:20 1本(15分)	12:40 下十五里 1本
		10:55 三国小屋	13:05 御沢野営場着 P (下山)
		12:35 切合小屋 1本	
		13:15 草履塚	
		13:30 姥権現 1本	
		13:45 御秘所	
		14:00 御前坂	
		14:30 本山小屋着	

1/2.5 万地形図; 川入、飯豊山

〈山行報告〉天候と体力温存の為に、車中泊をやめ“いいでの湯”に宿泊。予定通り 5 時に宿を出る。駐車場に着くや、雨が降り出す。登山届を記入、カッパを着ての出発。虫除けスプレーをかけるもアブが寄ってくる。追いつくも、左手首にチクッときた。バシッと叩き潰すが遅かった。これ以上、刺されない様に注意しながら歩く。御沢小屋跡から本格的登山道になるといきなりの急登。蒸し暑くカッパの下で汗が噴き出す。刺された所が痒い。1h も歩かずに下十五里でたまらず 1本。まずは 3h の急登だ。気を取り直して我慢比べ。降り続く雨で登山道が川になってきた。小さな木切れが流されて溜り、水と共に一気に流れ降る。洪水のミニ模型の様だ。歩き出して 2h 一寸。断念して降りるという 2つのパーティとすれ違う。“粘るだけ粘ろう”と登り続けるがしんどい。地藏山分岐を過ぎ雨が止んだと判断、カッパを脱いで 1本。快適だ！生き返った様で足が進む。剣ヶ峰の岩場も難なく通過、越した所で長めの 1本。お握りも頬張り水も補給。一気に切合小屋まで歩を進める。草履塚も過ぎると花々が目に着く様になる。姥権現で 1本取って周囲の花を楽しむ。ストックをしまい、御秘所の岩稜を無事に通過し一気に本山小屋へ。『頂上へ向かう人は今日はいない』と聞き、行動を終了。飯豊山神社へ参拝し、今日の無事を感謝。小屋の中で、6人の宿泊者と管理人ご夫妻の 8人で、山談議に花を咲かせて 1日が終了した。翌朝、風と雨の音で眼が覚める。“天気は良くなるだろう”と予測したのだが、残念だ。大日岳までピストン

し、もう一泊しようとの計画は断念。飯豊山の頂上だけを踏んで降りる事に決定。大日方面へ縦走予定の 2人パーティにご一緒して頂上へ。百名山手拭いが強風で飛ばない様に手伝ってもらっての写真撮影。別れの挨拶をして小屋へ戻る。下山の準備をし管理人さん等に挨拶して、再び小屋を出る。最初の水場で水を汲んでは、来た道を引き返す。雨は止むも、雄大な飯豊の景色は見る事のなかった山行だった。

〈リーダー所見〉計画段階で登山口を飯豊岨(山荘)側にするか、川入にするか、迷った。飯豊岨からの周回コースが魅力的だったが、ダイグラ尾根の単独下山はリスクを感じ断念。一般的な川入コースで大日岳までのピストンを 2泊 3日 で計画。天候の悪さから、無理をしないので飯豊山頂のピストンへ変更したが、いい判断だったと思う。東北は遠く、運転を考えると単独でなく、仲間と一緒にいきたいと思った。



小雨に強風、記念撮影も大変 (知り合った方の手助け)

確認 (リーダー)	津
18/08/10	田
作成 (報告者)	津
18/08/10	田